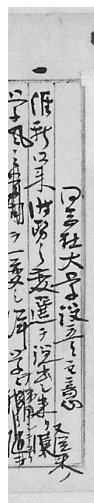
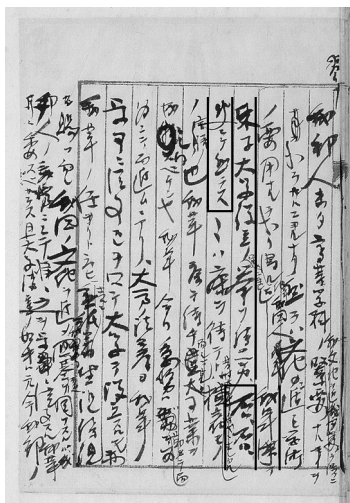


否、否、決シテ然ラス

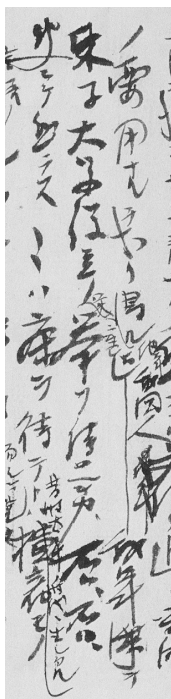
桜井 希（中学校教諭）



（中略）



（後略）



「否、否、決シテ然ラス」とは、新島が「同志社大学設立之主意」の中で「我輩手ヲ東ネ大学設立ノ義拳ヲ待ツヘキカ」と自問した後に述べた決意である。

毎年中学一年生の聖書の授業で、「同志社大学設立の旨意」（現代語で読む新島襄）を読んでいる。生徒たちにはあらかじめ、共感する箇所に下線を引くように指示し、読了後、その箇所を発表し合う。もちろん「一国の良心」や「良心を手腕に運用する人物」といった箇所の人気は高いが、「今やわが国は社会の秩序が破れ、規律が乱れ、人心は向かうべき方向が分からない状態である」、「一国を維持するのは、決して二、三の英雄の力ではない」を選ぶ生徒、そして「他者に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳によらなければならない」と思い、「学生が自分独自の気質を発揮し、自治、自立の国民を養成する点は、これこそ私立大学がもっている特性であり、長所であると信じる」生徒も少なくない。

生徒たちの期待に、我々はどうのように応えていくのか。「向かうべき方向」を人まかせにせず、今、この時に、生徒たちと共に時代を生き、希望を生み出していく決意が我々にあるのか。英雄の力ではなく、我々自身の力が問われているように思う。